

令和三年三月十一日

## 東日本大震災から十年を迎えて（談話）

東京都議会自由民主党

幹事長 山崎 一輝

本日、東日本大震災から十年を迎えました。

改めまして、震災によつてお亡くなりになられた方々とご遺族の皆様には哀悼の意を表します。また震災により被災をされた方々、今なお避難生活を余儀なくされている方々に心よりお見舞いを申し上げます。

我が党は、これまで「東北の復興なくして日本の再生なし」との決意のもと、国政と連携して、被災地の復興支援に取り組んでまいりました。医師、保健師、技術職、事務職などを被災地に派遣するとともに、公営住宅等への受入れなど多様な支援を行ってまいりました。引き続き、被災地の復興支援に全力で取り組むことをお誓い申し上げます。

延期となつている東京二〇二〇大会は、コロナという闇を抜けた先の「希望の光」です。今月二十五日より、いよいよ福島から聖火リレーがスタートします。今こそ関係者が「一丸となり、コロナ禍で開催される大会を、復興五輪として大会史に残るよう、歩みを進めていかなくはなりません」。

現在も不明者の方々の捜索が続く、被害の全容は明らかになっていませんが、本災害の経験と教訓を決して風化させることなく将来へと継承し、これから被災者の皆様の心に寄り添いながら、国や区市町村及び組織委員会等関係者ともしっかりと連携して、被災地の支援に全力を尽くしてまいります。